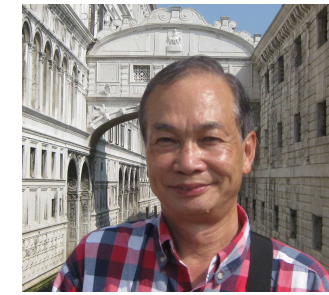


橋本 勉さん 機械工学科 1970 年卒業



◆ 経 歴

1970 年 3 月 株式会社キトー入社
1990 年 3 月 KITO INC(キトー米国子会社)へ出向
2002 年 7 月 株式会社キトー執行役員（技術開発本部長）
2005 年 4 月 経済産業省委託研究「小型チェーンの衝撃試験（巻上機分野の国際規格成果研究）」に取り組む
2005 年 10 月 中国特殊設備安全国際会議にて、「日本のクレーンの安全管理」に関して講演
2006 年 4 月 イギリス Hoist Magazine 誌の「World leaders: the hoist Top50」に選ばれる
2006 年 6 月 イギリス” Crane safety & Management 2006 Forum”にて「日本のクレーンの安全管理」に関して講演
2008 年 10 月 中国” Logistics & ICT Asia Forum”にて開発に携わった「3D クレーンシステム」に関して講演
2009 年 4 月 株式会社キトー執行役員（品質保証本部長）
2011 年 10 月 ISO/TC111 北京国際会議において「チェーンの最新動向」に関して講演
2012 年 10 月 国際標準化功績者表彰（経済産業大臣賞）を受賞
2013 年 3 月 株式会社キトー退職
2014 年 4 月 ホイストテクノ研究所（技術コンサルティング会社）を設立
2016 年 1 月 ISO/TC111/SC3 国際議長就任
2024 年 10 月 ISO/TC111/SC1/AHG1 コンビーナ（ワーキンググループリーダー）就任
2024 年 12 月 ISO/TC111/SC3 国際議長任期満了で退任
現在 ISO/TC111/SC1/AHG1 リーダーとして、チェーンの破壊靱性値研究プロジェクトを運営、プライベートでは、昔からの鉄研の仲間たちと「乗り鉄」、「飲み鉄」を楽しむ

◆ 本人コメント

在学中は鉄道研究部に所属、国内の消えゆく蒸気機関車達を追い求めての乗り鉄、撮り鉄の日々を過ごし、年一回の写真展には徹夜もいとわず準備に没頭した。鉄研の顧問は、厳しいことで有名な明治生れの沖島喜八教授で、材料力学の田村先生にも大変お世話になった。卒業研究は機械力学研究室で、「共振を利用した回転曲げ疲労試験方法の研究」に取り組み、初めて供試材に疲労クラックを発生させることに成功した時は、普段はほとんど笑顔を見せることのない沖島教授の顔がほころんだことは今でも忘れられない。

卒業後は多摩川対岸にあり、重量物を吊上げるクレーンやホイストの製造メーカである株式会社キトーに就職、学生時代に学んだ金属疲労の知識は大いに役立った。キトーは後に山梨県に工場移転、品質保証重視の主義から鑄造、電気部品以外のほとんどの部品を内製、製造工程の見本市として、機械工学科の新 1 年生が野辺山でのオリエンテーションの後に、毎年バスを連ねて工場見学に来たこともあった。

なお米国駐在の機会を得て家族で、300 年以上前の生活を続けるアーミッシュの人達が暮らすペンシルベニア州のランカスターという町に 6 年間住むこととなったが、日本人家族を近所の人達は温かく向かえ入れてくれ、彼らの懐の深さを味わった。当時は日本のバブル崩壊直前で、日本は世界一との意識を抱いて渡米したが、国土の広大さ、生活の豊かさなどに圧倒され、日本人は大きな勘違いをしている事を痛感させられた。因みに現地で住んだ住居の敷地面積は約 1 エーカー（約 1200 坪）、建物は車 2 台を収容できるガレージ付きの 3 階建、全室 24 時間フルオートエアコン完備という日本人の平均的サラリーマンにとっては、夢のような住環境でもあった。また材力の吉野教授に来訪していただいたこともあった。

しかし当時の米国では PL 訴訟が盛んな時であり、自分も何回か証言を求められたことがあるが、時には死亡事故などにも関係させられ、巨額の賠償金を請求されたりもしたので、嫌が応でも必死に相手の発言を聞きのがさず、間違いなく話そうとしたことは英語力

の向上につながり、今日の仕事にも大いに役立っていると考えている。

日本に帰任した後は、品質保証、技術開発などに携わったが、ある日夜間に散歩をしていたら、一軒の家の窓から中が見え、家族一同で楽しそうに夕食をとっているところを見た時、絶対にこの家庭の平和を壊すような製品を世に送り出してはいけないと心に誓い製品開発にも取り組んだ。その結果は、当然コストアップにつながり、会社からはずいぶん怒られたが、今でもその製品は会社の主力製品の一つであり、当時の開発コンセプトは間違っていなかったと自負している。

また英語が公式言語の ISO 規格の委員会にも出席するようになり、世界中のエンジニアが集まる中、9 年間にわたり技術委員会の議長を務めたが、英語が母国語でないにもかかわらず、欧州のエンジニア達は皆不自由なく英語を操ることに驚かされた。

米国での駐在経験、世界中のエンジニア達との英語で議論した ISO 技術委員会での経験は、自分の人生にとって、かけがえのない財産となったことは間違いない。

AI が発達した今日、これからの外国語でのコミュニケーションがどのように変化するか、未知の部分も多いが、日本人技術者にとっての英語の壁が低くなることを切に願うものである。

◆ 写真



鉄道研究部で国鉄の平機関区を見学



大学裏門の食堂「たまき」の
レバニういため定食



米国駐在時の住居



米国の自宅の応接間を自分で和風にアレンジ



米国生活では重要なオブリゲーションの
一つであるホームパーティー



吉野教授に米国を訪問いただく



現在でも 300 年以上前の暮らしを続ける「アーミッシュ」の農作業



帰任前の自宅家財のオークション（どんなものでも売れてしまう）



ISO 国際会議（北京）



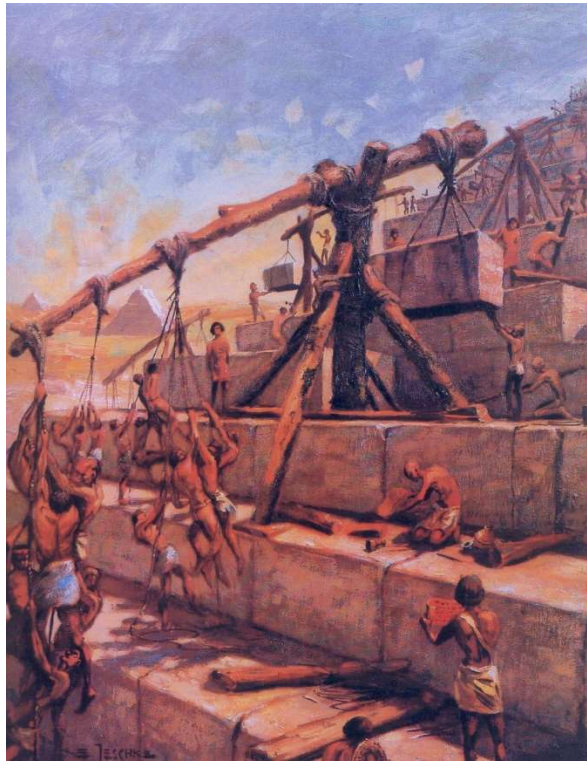
ISO 国際フォーラム（北京）での講演



ISO 国際会議（コルカタ;インド）でのプレゼン



1500 年代のドイツの歴史的クレーン（ライン側ほとり）



クレーンを使用したピラミッド建造の想像図



18 きっぷの旅静岡県「岳南富士岡駅」構内



18 きっぷの旅、千葉県銚子電鉄「外川駅」